

紙面から

教育随想

「鉄は熱いうちに打て」

JR東海岡崎駅長

羽柴 輝一氏

羅針盤

「『命』を感じる出会い」

理科指導員

安藤 直哉

この人に聞く

フランス美容美容ヨーロッパ大会優勝

理容師

斎藤 道弘氏

特集

「チャレンジ 総合的な学習の時間—小学校編—」

ふれあい

「先生も抱っこしてあげる」

梅園幼稚園

杉浦 綾子

師弟同行

前六ツ美南部小学校長

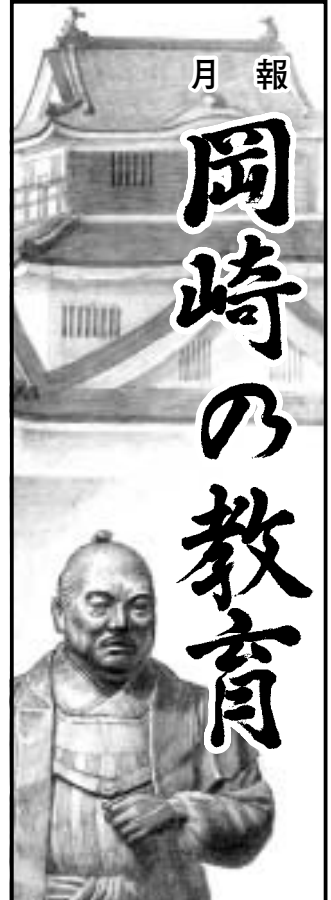
近藤 公一

西尾市立鶴城小学校

杉田 吉男

フォト・ヒストリー岡崎の教育

全国ホテル研究大会(昭和四十七年)



10月号

平成12年10月1日

発行/編集
岡崎市教育委員会

ふるさと学習
「御殿万歳」



FBC活動36年
「花いっぱい運動」



今月の学校紹介
～細川小学校～



- 教育随想 -



鉄は熱いうちに打て

JR東海岡崎駅長

羽柴輝一



先日、あるテレビ討論会で最近多発している少年による犯罪について、著名な方々が様々な原因を上げ「なぜ犯罪が多発するのか、どうしたら防ぐことができるのか」等活発な意見が交わされていました。

興味を持って聞いてみると、何となく原因らしきものが分りかかってきたように感じられました。

週末に家内と私の住んでいる住宅地をウォーキングしていると、公園や空地で遊んでいるのはお母さんに連れられた幼児ばかりで、一番遊びたいさかりの小学生の姿はありませんでした。小学校の校庭に差しかかると元気の良い声が聞こえてきて、少年サッカーと少年野球が練習していました。少しの間練習風景を見ると、校庭の片隅に一人の少年が隠れるようにしてサッカーの練習を見ていました。

私は少年の近くへ行き「ぼくはサ

ッカーをやらないの」と聞くと「やりたいけど……」。よく聞いてみると、母親にサッカークラブに入りたと言ったが「スポーツなんかやっても何にもならない。それよりも塾へ行って勉強していい大学へ行きなさい」と言われているようで寂しうでした。

家に帰り家内と自分達の子供の育て方はどうだったろうと話していて、二十年程前のことが思い浮かんできました。

長男が小学校二年の終りころ、私が夜の十時過ぎに家へ帰って来ると眠い目をこすりながら「お父さん、ぼく空手をやりたいけどやってもいいでしょ」と言ってきました。「やってもいいよ。自分で決めたことだから途中でやめたらだめだよ」と言っていると、「ぼくやめないよ」と大変嬉しそうでした。それから毎週二回の稽古は一度も休むことなく続

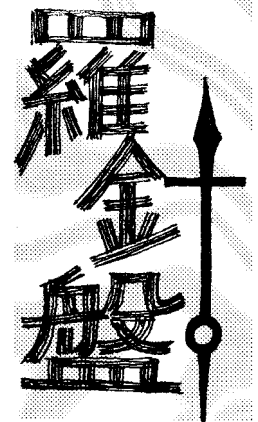
けて、中学一年に初段となり主将として師範を補佐して下級生の指導を行い、中学を卒業するまでほとんど休まず空手を続けました。

三つ下の次男も兄の影響があったのか、小学校三年から剣道を習い中学三年まで稽古を休まず、二段を取ることができました。

私も家内も二人の子供の稽古は出来る限り見に行きました。稽古中に何度も師範からゲンコツや竹刀でたたかれていましたが、それを見て多くの父母は一度たりともそれを暴力などと言う者はいませんでした。それどころか「もっと厳しく指導してやってくれ」と師範に言っていく親もいました。

高校野球などで監督が練習中に生徒を殴ったことで出場停止になったり、監督が交代させられたなどとテレビや新聞の報道をよく見かけます。私は暴力を許すつもりはありませんが、子供達に規律を守らせるためやプレーを上達させるために行うゲンコツは、暴力とは違うように思います。

「鉄は熱いうちに打て」と言われるように、小さなうちに「ルールを守らなければしかられるんだ」、そして「自分で決めたことは最後までやり遂げるんだ」。こんな事を家庭で、学校で、世の中の全ての大人達が真剣に取組んで行けば、きっと良い青年に成長させることができるのではないのでしょうか。(はしば てるかず)



「命」を感じる出会い

理科指導員

安藤直哉

「あつ、これはモンシロチョウの赤ちゃんだ。」

三年生の教室に歓声があがった。幼虫が苦手というK男も、初めは幼虫とやや距離をおいて観察していたが、しだいに目が幼虫に近づいていった。ノートに記録されていく内容も、伸びたり縮んだりしているという表面的なことから、毛を吐くという気付きに深みを加えていった。教師もこまめな中間指導により、K男の気付きの変化を的確にとらえ、満を持して、

「さわってごらん。」

と笑顔で言葉を掛けた。K男は、ついに幼虫に触れることができた。早速、すべすべして気持ちがいいと記録した。

他の子供たちも、教師の与えたモンシロチョウの幼虫にのめり込み、

ふるさとシリーズ この人に聞く



フランス美容理容 ヨーロッパ大会優勝

理容師 齋藤 道弘 氏

五月、イタリアのバエストウムで「フランス美容理容芸術技術協会(CAT)ヨーロッパ大会二〇〇〇」が開催された。この大会は、欧州各国と日本から一チームずつ参加。自国の文化を表現しながら、ヘアスタイルなどの技術を競い合うものである。齋藤さんは大会に参加した日本代表メンバーの一人。六人でチームを組み、見事に団体優勝した。

齋藤さんは、中島町で代々続く理容師の四代目。高校卒業後、単身上京。約五年半、住み込みで修業をし

ながら技術を磨いた。毎日、夜八時まで仕事をし、その後、九時から十二時までの三時間が訓練だった。この時に、大会に出場する機会を得たという。

「二十三歳の時、日本の予選で優勝して、大会に参加しましたが、緊張して手が震えてしまいました。しかし、今回は大きなミスもなかったもので、もしかして、優勝できるかなと思いました。」

と、淡々と語られるが大会が始まる寸前まで、大変な苦労があった。

「十分間のショー形式で競うわけですが、正味一分半から二分半で二回ヘアスタイルを変えらるんです。モデルは、現地に行かないとだれになるか分からないし、毛質や長さも日本人とは違うので、臨機応変でした。」

どんなヘアスタイルにするか、すぐに判断しなければならなかったという。

店の装飾台に飾ってある優勝トロフィーを持たせていただいた。ずしりと重いトロフィーは、その偉業を物語っている。

「大会で優勝した時は、とてもうれしかったです。でも、本当にうれしいのは、お客さんだけでなく、

家族や周りの人に『このヘアスタイルっていいよね。』と言われた時なんです。」

齋藤さんの顔に笑みがこぼれる。「お客さんあつての仕事ですから、コミュニケーションをとっても大切にしています。チャンスがあったら、もう一度、大会に出てみたいです。」

齋藤さんの言葉に、プロの理容師としての誇りと、新たな挑戦への意欲が感じられた。

氏名 さいとう みちひろ
生年月日 昭和三十八年九月二十一日
住所 中島町新町十七



観察をしていった。

授業後、子供たちは先生に自分たちで幼虫を捕まえたいと訴えにいった。昼放課には、多くの子供が教室を飛び出してキャベツ畑へ向かった。小さな幼虫をじっくりと観察したことで、子供たちは幼虫に興味を抱き、自ら動き出したのである。

この授業の成功の陰には、共に生きる一つの生として昆虫をとらえ生命の営みの素晴らしさを味わわせたという教師の強い思いがあった。その思いが、キャベツ畑に何度も通い、幼虫を集め、この日のためにたくさんの幼虫を育てるという教師の努力を生んだ。さらに、幼虫が苦手な子供も興味を持つように、十分に時間を与えるなど、様々な支援として本時に表れたのである。

子供たちは、モンシロチョウの幼虫に「命」を感じた。こうした授業の連続こそ、子供が「命」を実感する体験を蓄積させ、生命尊重の態度を養う。それが期待される授業だった。

【推薦する専門書】

「人間形成と自然」 初教出版

「命を感じるあそび辞典」 農文協

チャレンジ!

＝小学校編＝

総合的な学習の時間



福

▲「福祉実践教室」男川小3年



祉

▲「わたしたちの街のバリアを見つけよう」城南小4年

平成十四年度からの総合的な学習の時間（以下、「総合」と略記）完全実施に向けて、小学校における現状についてアンケート調査を行ってみた。

実施状況（グラフ1）については、九〇パーセントの小学校がすでに実施に踏み切っている。

しかし、開始時期を調べてみると、平成十一年度から十九校、今年度から実施した学校も八校あり、これから実施を試みていく段階のようである。また、「総合」が「生きる力」の育成をねらう中で、各学校で具体的にとらえている資質・能力は、（グラフ2）のような結果となった。

実践内容（グラフ3）を詳しく見てみると、「総合」の単元やテーマに含まれるキーワードの存在に気付かされる。

- ・「学区名や町名」 三十一校
- ・「川」 十三校
- ・「日本、外国、地球、未来、二十一世紀」 十二校

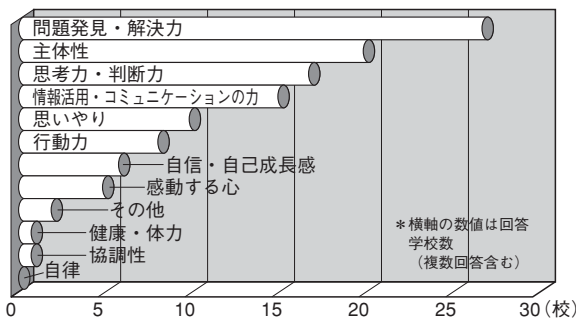
これらのキーワードからは、「地域や学校の特色」を生かしながら「環境や福祉」を学ぶなど、身近な地域から視野を広げていく学習の傾向が見られる。

年間の授業時数は（グラフ4）のようになった。

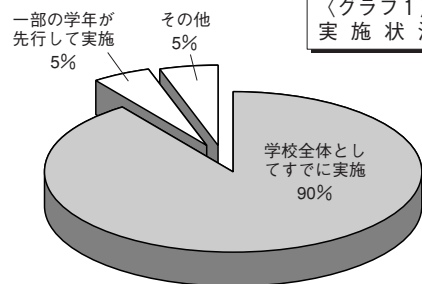
時間数については、半数以上の学校が、「総合」を時間割の中に位置付けつつ、必要ときに時間数を集めて集中的に行っている。「総合」の特質として、体験的な学習や校外での学習機会が多くなり、活動時間の柔軟な扱いなど、各学校の創意工夫が必要になってくると思われる。

課題として最も多かったのは、「安全管理上の問題」である。各学校での指導体制の整備も急務となるだろう。今後も「総合」のカリキュラム作りは試行錯誤を繰り返すことになろうが、私たちは、子供たちのために何ができるか、という原点を思い出し、子どもたちが目を輝かせて取り組んでいける授業をめぐしていきたいものである。

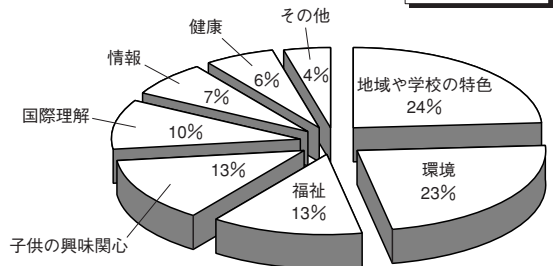
〈グラフ2〉育てたい「資質・能力」



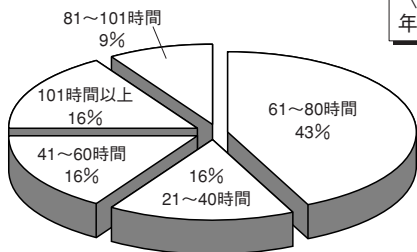
〈グラフ1〉実施状況



〈グラフ3〉実践の内容



〈グラフ4〉年間授業時数





国際理解

▲「世界の国へようこそ」岩津小5年



▲「ハワイアンフラダンスで遊ぼう」北野小3年



環境

▲「ぼくらは井田の石博士」井田小6年



▲「無農薬野菜作りに挑戦」小豆坂小5年



▲「未来へ伝えよう ぼくらの街の宝物」六名小6年
～六名名物「竹千代だんご」～



▲「奥殿・竹調査隊」奥殿小5年
～竹炭を焼く窯の地下作り～



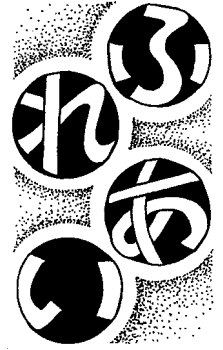
▲「メダ川クリーン作戦」矢作東小5年



▶「花いっぱい町づくり・ケナフの高さを調べよう」上地小3年



▲「まちを知り、考え、まちに生きる」連尺小6年



先生も抱っこしてあげる

梅園幼稚園

杉浦 綾子

「ウーン。Kの。Kの。」と泣く声。見ると、H子がK子の抱っこしていたじょうろを取ろうとして、引っ張り合いになっていた。

三歳児のH子は、おもちゃの貸し借りの仕方が分からず、こんなトラブルが多かった。少しずつK子に関心が向くようになると、K子の持つている物ばかりを取るようになってきた。こんな時、わたしは泣きじゃくるK子を抱き上げた。

「Hちゃんが持つて行っちゃったんだね。嫌だったね。先生の貸してあげるよ」などと言ひ、H子がK子の気持ちに気付くようにしてきた。

H子が困っている時は、同じようにスキンシップに心掛けた。初めは体を硬くしていたH子も、少しずつ体を寄せ

て甘えてくるようになった。

そんなある日、K子が積木の上を怖がりながら、渡ろうとしていた。すると、H子が来て、自分より体の大きいK子を抱いて渡そうとした。わたしは、そのしぐさがかわいくて思わず、

「Hちゃん優しいんだね。Kちゃんよかったね。」

と声を掛けた。H子はにこにこ笑って、

「先生も抱っこしてあげるよ。」

と言った。

「ありがとう。」

わたしは、H子の小さな体にもたれかかった。

「よいしょ。」

精一杯の力でわたしを抱えるH子の顔は、人にしてあげる喜びで輝いていた。



師弟同行

社会科の教師として

西尾市立鶴城小学校

杉田 吉男

教職の道を選んだ理由を聞かれると、私は、

「社会科が好きで、社会科を教えたかったから。」

と答えます。その時、附属中で、二・三年と担任をしていた近藤先生の姿がいつ

も脳裏に浮かんできます。

先生との思い出はたくさんあります。生徒の自主性を重視してくれたこと、怒るのではなく諭してくれたこと、「山賊の歌」を一緒に歌ったことなど、挙げればきりがありません。

中でもいちばん印象に残っているのは、やはり社会科の授業です。疑問に思ったことは、自分で調べて解決してい



く。この授業が、私を社会科好きにしてくれたような気がします。

また、先生が黒板に描かれた地図も忘れられません。なぜあんなに正確に描けるんだ

ろう。いつもそう思っています。

今でも、自分が描いた地図を見るたびに、近藤先生の偉大さを感じています。

まだまだ未熟な私ですが、近藤先生に一步でも近づけるように精進していきたいと思っています。

請われた時を源に

前六ツ美南部小学校長

近藤 公一

杉田君の授業を見たのは、甲山中を指導員として訪問した最初の年であった。

確か「国道一号線問題」を

環境面から取り上げた授業で、

これはいけると感じた。資料の準備、授業の構成、生徒への対応など、授業は荒削りでも、そこには青年教師の意気込みと情熱があったからだ。

同じ社会科の教師として、活気溢れる仲間が増えることは嬉しいものだ。その上、君が教える子で、同じ地理学を専

攻し、教職の道を選んだことは二重の喜びでもある。

その後、君の授業を見る機会はなかったが、市の教育論文で、また、組合の執行委員

として活躍する君があった。

一昨年、君が中心となって同級会を開いてくれた。二十

年ぶりかで懐かしい顔に会い、みんな大人になったと感慨を深くした。それぞれが近

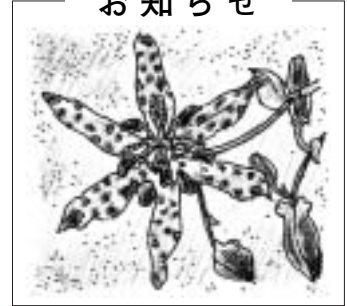
況を語る中で、君は先生になるべくしてなったと思った。

現在、広域人事で西尾に派遣され、社会科の指導員をしているとか。請われた時が大

きなチャンスだ。請われたことは断わらず努力し、それを源にして精進して下さい。

源にして精進して下さい。

お知らせ



岡崎市教育ネットワーク構築

が十月からスタートする。これは国の施策となつてい『教育の情報化』の構想到に鑑み、二十一世紀の岡崎の教育活動の活性化を図ることを目的として構築したものである。

今年度は、初年度としてパソコンを一台配備し、主に教務主任によるネットワーク利用を進めている。まず、学校間や教育委員会事務局等との連絡調整の効率化を図る。

今後、利用状況や使い勝手を見ながら改良を加えるとともに、教育情報、研究成果、指導事例の共有化や、児童生徒の授業などでのネットワーク利用の促進へとシステムを拡張していく予定である。

第二十五回岡崎市小中学生統計グラフコンクール

市長賞

- 竜美丘小 六年 荒井 浩介
- 竜海中 三年 見並 良治
- 城北中 三年 中野 仁美

市議会議長賞

- 竜美丘小 五年 見並 克俊
- 竜海中 二年 荒井 俊介
- 竜美丘小 五年 刘田 唯可

教育委員会賞

- 竜美丘小 四年 植田 美咲
- 城北中 一年 鈴木 里奈
- 城北中 三年 稲垣 育恵

学校賞

- 竜美丘小学校
- 岩津中学校

第三十回愛知県野生生物保護実績発表大会

- 県知事賞 東海中学校
- 県教育委員会賞 生平小学校
- 日本野鳥の会愛知県支部長賞 美合小学校

第四十回愛知県合唱コンクール

- ・女性合唱の部 六ツ美北中学校
- 金賞

東海吹奏楽コンクール

大編成の部

銀賞

小編成の部

- 竜海中学校
- 矢作中学校
- 矢作北中学校
- 葵中学校

第五十四回愛知県中学校総合体育大会

- バスケットボール男子 城北中学校
- バレーボール女子 矢作北中学校
- 卓球男子 城北中学校

優勝

- ソフトボール女子 六ツ美北中学校
- 水泳男子 城北中学校
- 相撲 竜海中学校

優勝

- 附属中学校

第三十回愛知県野生生物保護実績発表大会

- 陸上競技女子四百Mリレー (個人) 優勝
- 陸上競技女子四百Mリレー 矢作中 白石・岩脇

陸上競技男子三年百M

- 美川中 酒井シエリコ
- 陸上競技男子三年千五百M 岩津中 山本 良輔
- 陸上競技男子二年百M 北 中 小柳 龍太

水泳競技男子四百Mリレー

北 中 小柳 龍太

竜海中 高木・鈴木

準優勝

- 六ツ美北中学校
- 早川・柳
- バスケットボール男子

水泳競技男子百M背泳ぎ

- 矢作北中 尾崎 勇
- ソフトテニス女子 常磐中 原田・日馬

ソフトテニス男子

- 三位 河合中学校
- カヌー競技女子 カヤクシシクル 山下真衣香
- カヤクベア 磐出 山下・藤嶋
- カヤクフォア 磐出 山下・本村

宮崎・倉田

第二十二回東海中学校総合体育大会

卓球男子団体戦

優勝

- 水泳競技男子百M背泳ぎ 矢作北中 尾崎 勇
- 水泳競技男子四百Mリレー 竜海中 高木・鈴木

早川・柳

六ツ美北中学校



▲全国中学校総合体育大会・卓球 (六ツ美北中学校)

・カ
ツ
ト
葵
中
高
木
理
人



全国ホテル研究大会 (昭和47年)

環境学習への取り組みが盛んになってきたが、岡崎には地域環境保全に古くから取り組んでいる学校がいくつかある。

昭和四十七年八月、第五回全国ホテル研究大会が河合中学校を会場にして開催された。元秦梨小の校長であり、全国ホテル研究会現会長の古田忠久氏の情熱によるところが大である。

「岡崎ゲンジボタル」が国の天然記念物に指定されたのは昭和十年十二月。全国で三番目の指定であった。これより先に指定を受けた地域は、現在ホテルの発生は見られず指定解除となったため、岡崎地区が実質最も長い指定地となっている。



写真提供 河合中

大人として、真摯に受け止めたい。「二〇〇〇年子ども国会」は、社会の諸問題について、「私たちにできること、大人に望むこと」という視点で宣言文をまとめ、「勇気の日」の設定を決めた。真の勇気とは何か。宣言文をもとに、子供たちと語り合いたい。

試行錯誤という言葉がぴったり
の「総合的な学習の時間」の実践。

アンケートの最後の感想には、この時間への期待が書かれたものが多かった。子供たちの生き生きとした顔を見るのを楽しみに、日々の実践を工夫されている先生方の姿が目につく。

シ オ ス ア

秋風がさわやかな十月。子供たちの心も落ち着き、読書には最適な季節。ところが、テレビゲームの影響で、子供たちの読書量が年々減ってきているという。本は、想像力や感性を豊かにする。このときにこそ、本のおもしろさを味わわせたいものだ。

鈴虫の鳴き声聞き、その姿をすぐに想像できる子供。鳴き声は知っているが、姿を見たことのない子供。実体験の有無や生活環境が、子供たちの未来に大きな影響を与えるような気がしてならない。秋の夜長に鈴虫と子供たちの姿を重ね合わせる。



- * 修身教授録 森 信三 ¥2300 致知社
- * 脳を鍛える 立花 隆 ¥1600 新潮社
- * 「話す力」の鍛え方 永崎 一則 ¥1200 三笠書房
- * 生きるヒント愛蔵版 五木 寛之 ¥1700 角川書店

* メダカが消える日 小澤 祥司 ¥1600 岩波書店

メダカが環境庁のレッドリストに載った。メダカを追い詰めてきたものは何なのか。農業、化学肥料など要因はさまざまだが、根本的な影響を及ぼしたのを水田の土地改良事業と指摘しており、その根拠に納得させられる。「今までの土地改良事業では生き物のことを考えてこなかった」の反省から、生産性、経済性一辺倒ではなく、他の生物に配慮して共存するための工事法を工夫するという心構えは、ぜひ広がってほしいものである。